

地域の高齢者の在宅療養を支える

地域包括ケア病棟 看護部 一柳 結衣主任 インタビュー



左から今村 夏樹主任
松下 辰也主任・一柳 結衣主任

2014年の地域包括ケア病床開設後、2016年に2階フロアを改築して増床され、まもなく7年を迎えます。

現在は46床で、スタッフは看護師25名、介護士6名、看護助手1名、クラーク1名が在籍しています。急性期病院で治療を受けた後の転院や検査・治療・レスパイト（介護者の休息のためなど）等を目的とした入院を受け入れ、治療やリハビリを経て生活の場に戻れるよう支援しています。

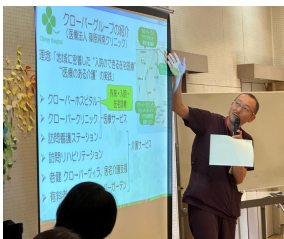


毎日カンファレンスをし
情報や意見を交換しています

地域包括ケア病棟は入院期間が60日と定められており、期限を考えると入院後早期から退院に向けた方針や目標を考える必要があります。患者様やご家族にとっては、短い時間の中で人生における重大な決断を迫られる場面も多くあり、関わりに難しさを感じることもあります。地域の高齢者が安心・安全な生活を続けるために重要な役割を担っているという思いをもって、スタッフ同士で意見を出し合い支援の方法を共有しながら、少しでも納得できる決断をしていただけるよう取り組んでいます。また、医師・看護師だけでなく、リハビリテーション部や地域連携室・在宅診療部等、多部署・多職種との連携や協働も重視しており、スタッフに、チームで支援を行う楽しさややりがいを感じてもらえる職場を目指しています。

第6回「つながろう鶴沼」に在宅診療部と広報企画課が参加

～石渡 俊次副院長と沖野副主任が講演～



当院や在宅療養について
講演する石渡副院長

「つながろう鶴沼」は地域の見守り活動に取り組むさまざまな団体が顔の見える関係を作り、感じていることや課題などを話し合い、高齢者が安心して住み続けられる街づくりを考える会です。老人会や町内会、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員、生命保険会社の方などが参加されています。今回は、くげぬま探求クラブの発表のあと、当院石渡副院長と在宅患者支援室 沖野副主任が在宅診療についてお話ししました。ご参加の方からは大変関心をもってお聴きいただきました。



在宅診療について
講演する沖野副主任

その後はグループに分かれてそれぞれの取り組みを話し、質問し合い、時に笑い声も上がる盛り上がりでした。在宅診療や在宅介護を受けるためにはどうすればいいのかなどの質問も受け、在宅療養の方法についてあまり知られていない実情が垣間見え、医療側として説明や周知を行う必要性を改めて認識しました。病院や医師を身近に感じていただけるよう、これからもこのような機会を大切にしていきたいと強く思いました。（広報企画課 宮地）



グループワークに参加する
石渡副院長